



報道機関 各位

東北大学大学院理学研究科

国際シンポジウム「科学の不定性と社会 ~ いま, 法廷では..? ~」 ブリーフィングのご案内.

原発、地球温暖化への対処など、科学だけでは正解が出せない先端技術・環境予測などで、市民、行政、そして司法は、科学的知見や専門家にどう向き合い、主体的判断に活用できるでしょうか、本ブリーフィングでは、シンポジウムの問題意識を、コンカレント・エヴィデンス*1方式の新しい科学裁判を普及させた豪州NSW最高裁判所マクレラン判事、科学の不定性*2と社会的意思決定の理論家であるサセックス大学スターリング教授(科学政策論)を招聘する趣旨と合わせてご説明します。

本シンポジウムは、独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター「科学技術と 人間」研究開発領域、研究開発プロジェクト「不確実な科学的状況での法的意思決定」の一環 として行っているものです。

* コンカレント・エヴィデンス オーストラリア発祥の新しい科学裁判の方法 * 科学の不定性 社会との接点で科学が持つ、科学では解を一つに定め得ない性質

日時: 8月8日(水) 午後1時~午後3時

場所: JST東京別館2階セミナー室:東京都千代田区五番町7 K's 五番町

出席者:常磐大学 吉良貴之、総合研究大学院大学学融合推進センター 平田光司

国際基督教大学 中島貴子、東北大学大学院理学研究科 本堂 毅

当日配布資料:コンカレント・エヴィデンス日本語版ビデオ、スターリング氏の研究紹介(日本語訳)など。

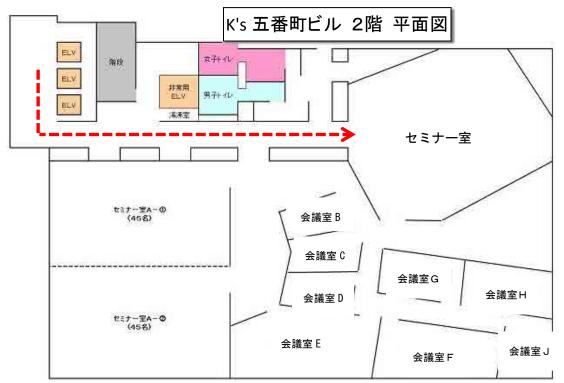
お問い合わせ先:

東北大学大学院理学研究科 国際シンポジウム事務局担当(大石,本堂) tel. 022-795-5823, fax. 022-795-5831 sy826@mail.sci.tohoku.ac.jp

シンポジウムWeb: http://www.sci.tohoku.ac.jp/hondou/0826/

〒102-0076 東京都千代田区五番町7番地 K's 五番町ビル





「不確実な科学的状況での法的意思決定」科学グループ 2012 国際シンポジウム

原発の稼働の可否, 地球温暖化への対処など,

科学技術の問題は科学が答えを決めるのでしょうか.

専門家の判断は絶対なのでしょうか.

学校では「正解のある科学」が教えられます。しかし、先端技術の評価や 環境予測など, 現実社会の中で科学は正解を用意できません(不定性). では、主権者たる市民、行政、そして司法は、このような本質を持つ科学、 これを用いる専門家とどう向き合えば、主体的判断に活かせるので

このシンポジウムでは「不定性」が端的に現れる法廷を例に 日本の制度的問題を明らかにし,

世界最先端の「コンカレント・エヴィデンス方式」(マクレラン判事),

「専門知の不定性」(スターリング教授)の知見を踏まえることで、

科学の不定性を直視した社会制度のあり方を議論します

8/26 sun.

・橋記念講堂 大ホール

 $10:00 \sim 18:00$

入場無料 同時通訳あり

主催:(独)科学技術振興機構 RISTEX 研究開発プロジェクト「不確実な科学的状況での法的意思

運営:国際シンポジウム組織委員会

後援:科学技術社会論学会 日弁連法務研究財団 日本物理学会 日本臨床環境医学会

事務局: 980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3 東北大学 大学院理学研究科 本堂研究室内 TEL:022-795-5823

【シンポジウム組織委員会】総合研究大学院大学学融合推進センター 平田光司/九州大学情報基盤研究開発センター 小林泰三/国際基督教大学中島貴子/流通経済大学法学部 尾内隆之/北陸先端科学技術大学院大学 立花浩司/常磐大学 吉良貴之/東京工業大学大学院理工学研究科 調麻佐志/大阪大学大学院医学系研究科 吉澤剛/東北大学大学院理学研究科 久利美和/東北大学大学院理学研究科 村上祐子/東北大学大

参加申し込み・詳細

http://www.sci.tohoku.ac.jp/hondou/0826/ または「科学の不定性 0826」で検索すると上位に出ます。

主 法 は 社

講 演

10:00

14:30

※昼食休憩あり



「科学の不定性と裁判:科学者の視点から」

毅(東北大学理学研究科)

「"コンカレント・エヴィデンス"とその制度的含意」 吉良貴之(常磐大学)



「Concurrent Evidence:専門家を活用する現代的手法」

Peter McClellan (オーストラリア NSW 州最高裁判所コモンロー首席判事)

「専門知を意思決定にどう使うか:日本の状況における問題点」

尾内隆之 (流通経済大学法学部)





「科学の不定性に向き合う:方法論と政策の可能性」

Andrew Stirling(英国サセックス大学)

「合理的失敗は可能か一後悔の最小化、ベストエフォート、受容」 **小林傳司**(大阪大学)



企画展示など

14:30

15:30



「科学の不定性と法を扱うための『ハンドブック』、その編集を語る」(中島貴子ほか) 企画展示 ほか

パネルディスカッション

15:30

司会: 尾内降之 / 本堂 毅

Peter McClellan 18:00

(オーストラリア NSW 州最高裁首席判事)





小林傳司 (大阪大学)



平田光司 (総合研究大学院大学)

米村滋人 (東北大学)



渡辺千原



法哲学漫談カフェ

18:00

20:00

若手法哲学者がシンポジウム全体の内容をコンパクト にわかりやすく語り、リラックスした雰囲気で参加者 と意見交換します.

話題提供:小林 史明 (明治大学) 川瀬貴之 (千葉大学)

吉良貴之 (常磐大学)

ファシリテータ: 立花 浩司 (科学ひろば)

お申込み:

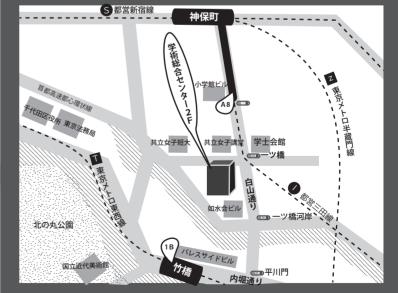
氏名、フリガナ、所属(ご職業)、連絡先を明記の上、

sy826@mail.sci.tohoku.ac.jp へメールをお送り下さい。

郵送:980-8578 (住所不要) 東北大学 理学研究科 本堂研究室内 国際シンポジウム事務局 FAX: 022-795-5831

一橋記念講堂(学術総合センター) 〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号 学術総合センター2階



- 都営地下鉄

「神保町」駅下車··A8出口から徒歩3分

▼ 東京メトロ 東西線

「竹橋駅」下車…1B出口から徒歩4分